長洲町立長洲小学校　校長便り　No.２９

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和４年９月５日(月)

雑感

最近、コミュニケーション能力が稚拙な子供が目立つ。言動が粗暴なのが一つの特徴だ。そのような子供達は友人関係において何らかのトラブルを引き起こしがちだ。では、コミュニケーション能力を高めていくためにはどうすればよいのか？　手っ取り早いのは、直接のコミュニケーション機会を増やし、互いの表情や言葉の様子を感じ取りながら、相手の感情に寄り添いつつ自分の言動を選んでいくことだ。また、これは自然に身に付くものではなく、我々大人がお手本を見せることも重要であろう。大人は子供達にとっての身近な言語環境であることは間違いない。企業の採用担当者はこう言うことが多い。「コミュニケーション能力は採用に際して非常に大きなポイントとなる。」

そもそも、子供達のコミュニケーション能力の稚拙さはどこからくるのか？　多くの要因があるが「ＳＮＳ依存」「親子の相互依存」等が考えられる。大人が先回りして子供を守り過ぎたり、お世話し過ぎたりするのは、子供の成長の妨げになるようだ。放任でもなく溺愛でもなく、中間が良いのだが、その塩梅は難しい。

夏の思い出

仕事、コロナ禍…、そんなことが頭から離れない夏でしたが、それでも何とか楽しみを見つけようとする自分もいました。仲間との食事、教え子や家族とのひと時…。

ある日のこと、早い時間からお酒を飲む機会がありまして、自宅に帰り着いたのは夕方６時頃でした。ひと眠りした後、今度はどうしても眠れなくなってしまい、どうしたものか、仕事をしようとしても遊ぼうとしても何か気が入らないのです。何となくＰＣを開きニュースを見ると〝ペルセウス座流星群〟の見出しが目につきました。「これだ！」と思い、夜更かしすることにしたのです。

私が小学生の頃、友達が天体望遠鏡を持っていて、それで月面を見たり、太陽黒点を見たりしたことがあって、当時から天体には興味がありました。小学５年の頃熊本市立博物館のプラネタリウムが投影開始となり、それからというもの、星に魅せられていきました。友達の天体望遠鏡は口径の小さなものでしたが、土星の環や木星の縞模様を見るくらいなら十分で、初めて見た時の感動は今でも忘れません。そして、初めて流れ星を見た時は願い事をするなんてことはなく、「あっ！」と声出しただけです。正にあっという間の出来事でした。その流れ星は流星群のものではなかったようですが、言葉にならない感動はお解り頂けると思います。

ペルセウス座流星群ですが、当日は月明かりがあって条件はあまりよくありませんでした。夜更かしとは言え、年のせいか１時２時になるとやはり眠くなってきます。背伸びをした瞬間でした。北東の空に光の筋が!!　一つ目の流れ星が出現してから１０分ほどの間に４つの流れ星を見ることができました。残念ながら願い事はできませんでしたが、久し振りに童心に帰ることができた一時でした。

シリーズ「自分を語る」＃２９

「急性出血性偽膜性薬剤性大腸炎」という名前が告げられ、病名がはっきりしただけでも一安心でした。これで帰れる。薬で治るなんて簡単に考えていると、看護師さんがやってきて、「澤田さん、ごはんよ～。」「やった、飯が食える！」と喜んでいると、看護師さんが準備していたのは点滴。「取り敢えずこれだけね。」と言って、せっせと私の腕に〝ぐさっ〟と刺して行ってしまいました。その後、主治医の説明はこうです。「澤田さんの腸壁はボロボロの状態です。多分薬の副作用と無理が重なったのでしょう。暫く休めないといけません。先ずは２週間、絶食して頂きます。その後食事は考えましょう。もちろん入院です。」私はすがるように、こう尋ねました。「先生、何も食べなくて大丈夫ですか？」先生は笑いながら「大丈夫、人間１か月間食べなくても死にません。しかも今は点滴がありますとっておきの奴がね。明日はそのための処置をしますから。」「何ですか、その点滴は？」先生の目が〝キラーン〟と光りました。「フフッ、中心静脈点滴です。」怖いよ～。

翌日、早い時間から看護師さんが私を呼びに来ました。「澤田さーん、処置室にお入りくださ～い。」これがすごく怖かったです。

そうそう、「中心静脈点滴（ＩＶＨ）」について簡単に紹介しましょう。点滴ってのは結構血管に負担を与えるらしく、ドロッとした輸液などは血管が炎症を起こしたりするらしいんですね。で、それを解消するためには太い血管に輸液を送り込むことで解決するらしいんですよ。お医者さん方もやることがすごいですよね。一番太い血管は心臓付近の静脈らしく、そこまでどうやって針を入れるの？なんて考えていると、看護師さんはアッサリ「鎖骨下からですよ。」と教えてくれました。まず、首の比較的太い静脈からカテーテルという針金をリーダーとして入れます。それを鎖骨付近からまた出します。ここから先はどのような方法なのかよく解らないのですが、その針金をリーダーとして細い管を鎖骨下静脈から差し込み、心臓付近まで入れていくらしいのです。長さにして６０㎝ほどで、予定された位置まで差し込んだら、鎖骨付近で管に蓋をして終了です。って簡単に書きましたが、ストレッチャーに乗せられ、最初に目隠しをされた時の恐怖と言ったら…。目隠しというのは、手術の時、術野が良く見えるように濃い緑色とか青の布を被せるじゃないですか、あれです。私は「うわ～っ、手術じゃんこれ。」体が震えましたよ。

まず、局部麻酔で首と鎖骨付近に注射。痛いというより怖かったですね。そして、私の首を触っているらしく、お医者さんが何度も聞いてきました。「痛くないですか？」ことの時、お医者さんは針で首と鎖骨付近をツンツンとつついていたそうです。私は当然痛みを感じません。次に先生が言ったのは「痛かったら言ってください。」でした。何だろうと思っていると、首筋に生温かいものが流れる感じがしました。そうです、血です。首筋を切って血管が良く見えるように切開したのです。２０分ほどで終わったのですが、私には数時間に感じました。

処置後、どうなっているのか鏡で確認すると、鎖骨付近に管が１０㎝ほど出ていてそれを丸めて絆創膏で固定されていました。それから１カ月、その管は私の命をつなぐ、正にライフラインとなりました。２４時間点滴が可能となり、私は「腹は減るけど生きている」という不思議な状態で生活することになりました。教員正式採用まで２ヶ月…（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　　可　・　不可　）